

1 学校教育目標

郷土を愛する心を育み、たくましい体と強い意志をもって自立し、地域の教育力を活用した体験活動を生かしつつ、自ら考え、自ら求める心豊かな人間関係を育み、生涯にわたり学び続ける人材を育成する。

2 重点目標

- 1 地域に貢献し、地域にささえられる学校を目指す。
- 2 県下初の連携型中高一貫教育校として、その発展・定着を目指す。
- 3 習熟度に応じた個別指導、選択授業を重視することで、生徒に喜びを与え、興味・意欲の高揚を図る。
- 4 生徒の自己理解を援助し、将来にわたり個性と能力を最大限発揮し得る生徒の育成に取り組む。
- 5 小規模校の特性を生かして、生徒の内的理解に努め、一人ひとりの心に響く指導にあたる。

4 自己評価の実施方法についての学校関係者評価

生徒、保護者のアンケート結果を踏まえた上で、教員が自己評価していることは評価できる。次年度は連携中学の生徒もアンケートの対象に加えるべき。

5 総合的な学校関係者評価

自己評価は概ね評価できる。千種高校の職員は、千種高校が千種町における最高水準の学びの場であることを認識し、生徒の学力向上を使命とし、生徒に自信をもたせる取組をして欲しい。中高連携を軸とした千種町全体の教育的発展につなげることが重要である。

3 自己評価結果(5段階評価:「5」がよくできているとなり、「1」はできていない)

領域	評価の観点	番号	実践目標	22年度評価	改善の方策	学校関係者評価 (自己評価、改善策の適切さ)	
学 校 運 営	開かれた学校づくり	1	学校のホームページや「千高だより」・「連携型中高一貫教育校だより」、また「学年通信」等を通じて、学校の情報を可能な限り提供する。	4.9	改善・工夫を重ね、地域の人に分かりやすい情報発信を継続していく。	学校からの一方的な情報提供にならないように、連携型中高一貫教育校の教育的効果等を十分に理解できていない人、関心のない人も含めて地域を巻き込むことが必要である。	
		2	学校評議委員会を定期的開催し、また学校評議員に授業や学校行事に参加してもらい、それらについての意見を学校運営に役立てる。	4.1	年度当初に実践目標を明確にし、学校評議員に報告する。評価の中間報告を取りまとめ、年度後半の取り組みに反映させる。		
		3	学校施設を定期的に地域の活動のために開放する。	4.4	「和太鼓」や「柔道教室」の継続使用の他に、地域の人々が学校施設を利用し交流の場を設ける。		
	生徒指導	4	年度当初に生徒指導方針を明確に職員・生徒に示し、定期的その方針の達成状況を確認し指導する。	3.9	生徒指導委員会の定期開催・生徒指導規定の見直しと改善・全校集会の継続。		キャンパスカウンセラーと十分に連携して、いじめ等の問題がないこと、教員に対する生徒からの不満がないことは、生徒指導等における千種高校の良さであり、大いに評価できる。このことを自信を持って外部にアピールすべきである。生徒指導と危機管理を重視した学校運営に今後も期待する。
		5	生徒の個人面談を定期的実施するとともに、家庭と密接な連携を図り、必要に応じて家庭訪問を行う。	4.3	年度当初のみではなく、各学期ごとに個人面談を実施する。		
		6	キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解を図る指導方法の共有を図る。	4.7	本校生徒の実態に即した内容の研修会を持つ。(カウンセリング事例など)		
	進路指導	7	3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	3.9	進学、就職それぞれに対する進路指導計画を作成し、個人の進路実現を支援する。		
		8	進路講演会・進路別説明会の実施やLHRでの指導を通じて、生徒の職業観、勤労観を高める。	4.2	地元企業に働きかけ、インターンシップの機会を模索する。卒業生との懇話会を実施し、就業を身近で現実的な問題としてとらえさせる。		
	教職員の資質向上	9	いつでも地域に授業公開ができる体制を整える。	4.4	指導方法についての研修の機会を設ける。各教科ごとに研究授業を実施し、意見交換をすることによって、授業の質の向上をはかる。		
		10	進路・教務・生徒指導等、学校の課題について校内研修を計画的に立案する。	3.6	部署内での意見交換の機会を定期的設け、学校の課題を明示する。それをもとに各部署で校内研修を計画・実施する。		
	危機管理体制の整備	11	防災・事故・防犯等に関する危機管理マニュアルを作成し、職員室などにその要点の掲示をする。	4.5	掲示のみではなく、危機管理に関する研修会を持ち、全職員が共通理解をし、意識をもっておく。		
		12	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、安全・安心な学校にするための危機管理体制を整備していく。	4.0	地域防災訓練を継続して、地域の方と共同した危機管理の取組を実践する。		
	学校運営全般	13	生徒の資料、指導・実践の記録等を蓄積し、教師間で情報交換を行う。	3.8	学年だけでなく職員全体で情報を共有することに努める。		
		14	学級委員の活用により、明るく活発で美化に心がけた学級経営を行う。	3.9	学級委員の仕事を示すだけでなく、生徒の自発的な行動を尊重した学級経営を目指す。		
	PTCA活動	15	学校行事に保護者や地域の方の参加を呼びかけ、また生徒・職員が地域の行事に積極的に参加する。	4.5	年間の行事計画を早めに保護者・地域に広報し、行事計画を協力者の立場で参加してもらうようにする。		

領域	評価の観点	番号	実践目標	22年度評価	改善の方策	学校関係者評価 (自己評価、改善策の適切さ)
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	16	地域貢献活動・就業体験・ふれあい育児など具体的な体験的活動を多く取り入れ、授業の中でも問題解決的な学習を展開している。	<b>4.8</b>	体験活動の中身の吟味に重点を置き、生徒の生き方、考え方、日々の学校生活にも、影響を与えられる活動を計画する。	<p>教員は「基礎・基本の定着」の項目を評価しているが、生徒の家庭学習は十分ではない。</p> <p>日々の授業では、教員が工夫をし、生徒が参加した授業が展開できているが、生徒が教室以外の場所でも自ら学習する姿勢を家庭と連携して身につけさせてほしい。</p>
	基礎・基本の定着	17	それぞれの生徒の学力に応じた習熟度別授業や少人数指導などの指導方法を工夫し、生徒の実態にあった評価基準を設定する。	<b>4.3</b>	少人数での授業を推進する。評価基準を明確にし共通理解を図る。	
	総合的な学習の時間	18	生徒の興味・関心・適性を把握し、そのニーズにあった学習テーマを設定し、職員が協働して取り組むための連携がとれている。	<b>3.7</b>	インプロ学習を軸とし、外部講師と連携してさらに発展を目指す。	
	個に応じた学習指導の徹底	19	評価方法について全職員で各教科の評価に対して意見交換を行う。	<b>3.1</b>	多様な生徒に対応する評価方法に関する研修の機会を設ける。	
	特別活動（学校行事など）	20	委員会活動やHR活動の充実に努め、生徒会活動など生徒の自主的な活動を活性化させる。	<b>3.8</b>	各委員会の活動が定期的、計画的に行われつつある。委員の自発性をより促す。	
		21	小規模校の特性を生かしながら、部活動を活性化させる。	<b>4.3</b>	千種中学校との部活動連携をより推進する。部活動体験を1学期・2学期にも実施する。	
22		地域貢献活動や災害復興支援などの実践をとおして、自主的なボランティア活動への意欲と態度を養う。	<b>3.8</b>	特別なものとしてではなく、日々の取り組みとして、学年毎に活動内容を計画・実施し、生徒全員の意欲を高める。		
課題教育	防災・安全教育	23	定期的な防災訓練を計画し、可能な限り地域住民と共に意識の高い訓練を行う。	<b>4.2</b>	地元自治会との合同防災訓練を積極的に取めた。今後も継続、発展させたい。	<p>千種町は高齢者が多く、頼りにできるのは高校生の力である。「千種高校分団」のような組織だったものがあれば、地域との信頼もいっそう築くことができる。</p> <p>小学校から高校まで系統立った学習の中で効果的な連携授業が必要などところで導入されるよう期待する。</p> <p>教員の人権学習に対する評価は低いが、人権意識は日々の授業や体験の中で育つものである。いじめがないことが、人権をよく理解していることになる。</p>
		24	長期休業前などに救急救命講習会を実施し、救急救命に対し教職員と生徒の意識と技術を高める。	<b>4.2</b>	教職員向けの研修・全校生徒への研修を、消防署や校医の協力を得て実施する。生徒への意識付けをより強くする工夫を行う。	
	人権教育	25	3年間を見通した人権LHRの充実に努め、身近な問題をテーマに人権について話し合わせる。	<b>3.3</b>	社会に出るための人権に関わる一通りの知識を3年間で身につけることを目指した計画を作る。	
	情報教育	26	教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	<b>3.6</b>	講演会のみならず、教科やLHRでもネット犯罪等の危機を生徒に知らせる。	
	環境・福祉教育	27	福祉施設や特別支援学校との交流や奉仕活動を通して、福祉への理解、福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てる。	<b>4.0</b>	「ちくさの郷」との交流を推進する、また福祉への理解をテーマにした学習をLHR等で取り入れる。	
	学校の個性化・多様化	28	学校設定科目や多様な選択科目を設定し、類型の特色化と、小規模校としてのより効果的な教育方法を研究する。	<b>4.1</b>	生徒の学力向上を目指した学校設定科目アクティブ、その他のコースの科目の精選、充実に努める。	
		29	地域人材・有識者等を特別非常勤講師として活用し、生徒の多様な興味・関心に応えとともに、より発展的で体験的な授業内容の学習活動を展開する。	<b>4.6</b>	生徒の日々の学校生活に還元される学習内容を厳選し、その目的に応じた外部講師を依頼する。	
30		千種中学校との連携授業や連携行事を、地域の支援を受けながら計画的に推し進める。	<b>4.3</b>	地域に支えられた中高一貫校であるという意識を生徒・職員も認識し、一層の推進を図る。		

自己評価のまとめ		学校関係者評価（自己評価の適切について）
<p><b>【成果】</b>（自己評価が高かった項目）</p> <p>連携型中高一貫教育の定着について、ある一定の成果を得ている。</p> <p>情報発信・キャンパスカウンセリング・授業公開・部活動の活性化・地域貢献</p>	←	一方的な情報発信で「やっているつもり」にならないこと。空き教室を地域に活用してもらい、地域を巻き込む努力を。地域貢献は大いに評価できる、今後も「地域の力」となることを期待する。部活動の活性化、マラソン大会は地域に元気をもたらし評価できる。
<p><b>【今後の課題】</b>（自己評価の低かった項目）</p> <p>評価方法・校内研修・人権福祉教育の更なる創意工夫</p>	←	いじめが存在しないのは、人権意識が日々の学校生活で育てられている証拠であり、低い自己評価をする必要はない。個々の学力的、能力的な差にいかに対応するかを課題とし、研修を積み重ねてほしい。